

- 令和6年度においては、森林ESD事業として、森林ESD授業を行った。また、おおさか河内材でベンチをワークショップを経て作製し、地元産材の良さを広くPRすることにつながった。
- 森林を通してESDを提供することにより持続可能な社会に活躍できる人材に育つ児童生徒を育成、多様な森林と住民との関わりを周知及び持続的な森林整備の必要性の理解を高めた。

事業内容

1 森林ESD事業

- ・森林ESD事業を11校（森林体験プログラム9校及び授業支援2校）に実施

【事業費】7,431千円（全額譲与税）

【実績】参加児童生徒数553人

1 森林ESD・PR事業

- ・おおさか河内材でベンチをワークショップを経て作製

【事業費】2,200千円（全額譲与税）

【実績】作製ベンチ数 1基

取組の背景

- ・SDGsの取組みが求められる中、森林を活用したESDを次世代に活躍する児童生徒に提供するため、森林ESD事業を令和元年度から実施している。

工夫・留意した点

- ・森林ESD事業について、委託形式を取り、各学校の負担を極力少なくした。また、ベンチ作製では作成過程でワークショップを開催することで、地元産材利用の必要性の周知を効果的に行った。

取組の効果

- ・令和元年度に森林ESD事業を実施した際は2校のみの実施であったが、令和6年度は11校で森林ESD事業を行うことができおり、実施校が広がり多くの児童生徒に森林ESDを提供できている。

また、ベンチ作製では地元産材を0.22㎡活用でき、大阪府CO2森林吸収量・木材固定量認証制度で木材利用によるCO2木材固定量0.2t-CO2の認証を受けた。



（事業1：森林ESD事業での木工体験一例）

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：36,754千円		②私有林人工林面積（※1）：5,006ha	
③林野率（※1）：68.6%	④人口（※2）：101,692人	⑤林業就業者数（※2）：10人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より